

ジャガイモシストセンチュウ



シストセンチュウの特徴

- ・シストセンチュウは、シスト（上写真左、卵のいっばいつまった袋）をつくります。1つのシストは直径0.6ミリぐらいと小さいですが、その中には200～500個の卵が入っています。
- ・シストは、ばれいしょが植えられるまで長いものは10年以上生き続けます。
- ・このシストセンチュウが恐れられている理由は、この小さなシスト1個でも簡単に畑を汚染し、一度汚染されると現在の段階ではこれを絶滅させることは不可能に近いからです。

シストセンチュウによる被害

- ・株の生育、塊茎の肥大が悪くなり、収量を減少させます。センチュウの密度が高くなると開花期からしおれたり、下葉が黄変して落葉します（上写真右）。春作では最大40%減収することが報告されています。

シストセンチュウ対策

- ・種いもは、植物防疫所の検査に合格したものを使用しましょう。
- ・植物検診、土壌検診を定期的に行って、早めに発見しましょう。
- ・既に発生した圃場では次の対策をおこなしましょう。
 - 圃場にイモが残らないよう、丁寧に収穫しましょう。
 - くずイモは、圃場や周辺に捨てないようにしましょう。
 - アイユタカなどの抵抗性品種を栽培しましょう。
 - 農機具、コンテナ、履物等は、他の圃場に移動する前に、土をていねいに洗い落としましょう。
- * ~ は、圃場でセンチュウが増えないようにするため、 ~ は発生していない圃場にセンチュウを運ばないようにするためです。 ~ を同時に行うことが重要です。

ジャガイモ塊茎えそ病

塊茎えそ病とは？

- ・塊茎えそ病は、ジャガイモウイルス（PVY）というウイルスが原因の病気です。
- ・この病気は、品種によって病気の出やすさが違います。長崎県の主要品種であるニシユタカはこの病気に最も弱い品種です。
- ・ウイルスはアブラムシによって運ばれます。アブラムシで運ばれたウイルスは、葉で増えて塊茎に移動します。ウイルスに感染した塊茎を種いもとして植え付けると、次の世代へウイルスが伝染します。

塊茎えそ病の被害と症状

- ・塊茎えそ病は、その名のとおりに、塊茎にえそ症状を起しますが、症状にはいくつかのタイプがあります。
 - 陥没症状（写真左）：表面に1cmぐらいの黒色の穴ができて、深さ1cmぐらいまで茶色に変色します。
 - ミミズ腫れ症状（写真中）：表面がミミズ腫れのようにふくれ、その後ふくれた部分が黒く沈んだ状態になります。
 - 黒目症状（写真右）：表皮の下の内部が茶～黒色に変色します。
- ・この病気は、収穫した時には症状が目立たないことが多いのですが、貯蔵した場合に、病気が進行して、症状が激しくなります。



塊茎えそ病対策

- ・種いもは、植物防疫所の検査に合格したものを使用しましょう。
- 圃場にイモが残らないよう、丁寧に収穫しましょう。
- くずイモは、圃場や周辺に捨てないようにしましょう。
- 圃場や周辺の野良イモを除去しましょう。
- はねがあるアブラムシは、離れた圃場まで飛んでウイルスを運びますので、薬剤散布を行う場合は、地域で一斉に行いましょう。
- * ~ は産地内でのウイルスの伝染源を減らすために行います。 ~ のアブラムシの薬剤防除と組み合わせて行うことが重要です。